

# 多機能トイレ

## 利用者が不便に思うポイント



●空間が広くてトイレ内の設備の配置がわからない。

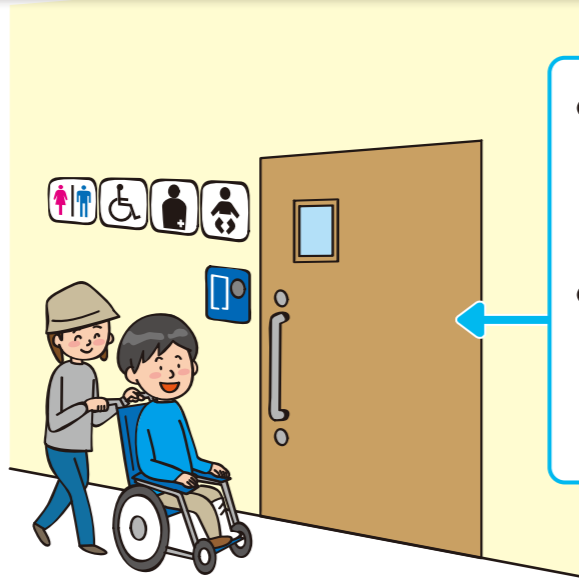


●手すりが固定式だと、車いすが便器に横付けできないから、利用づらい。  
●手すり近くに洗面器があると邪魔になって、車いすが便器に横付けできず、利用づらい。

●多機能トイレの位置によっては、異性介護をするときに、利用しにくいことがある。

多機能トイレは、異性介助に配慮して男女どちらでも入りやすい位置に設ける。

手すりは可動式とし、車いすでアプローチしやすいものとする。その際、手すりまわりに洗面器等アプローチに邪魔になるものを配置しない。



- ブースの鍵は、指が不自由な人でも操作しやすい形状のものを、操作しやすい位置に設ける。
- 鍵が2つあると、子どもを連れて入った時、子どもが勝手に出ていけないようにできる。



- 汚物流しなど、オストメイト対応設備(温水機能付き)を設ける。
- 鏡は上半身が映るよう配置する。

- 操作ボタンなどはJIS基準にあうように配置する。
- 必要に応じて、触知図や音声誘導装置を設ける。

ベビーベッドなどは、扉開閉の邪魔にならないように配置する。

# 案内サイン

## 利用者が不便に思うポイント

### 多くの方の意見

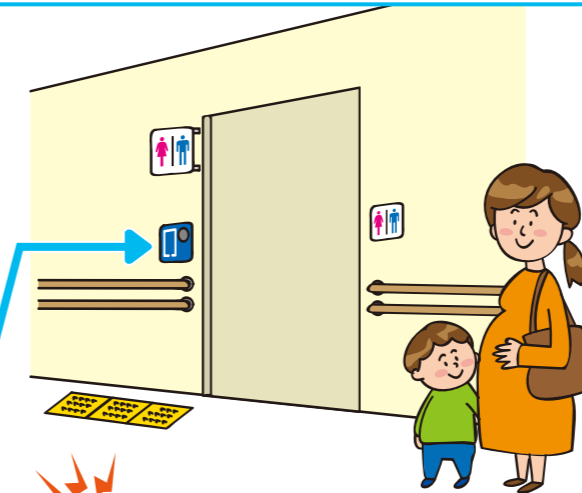
- 緊急時に必要な出入口や設備の位置がわかりづらい。
- 表示内容が多すぎて、わかりづらい。
- 文字が小さくて、わかりづらい。
- 設置場所が暗いと、案内板が見えない。



●文字や図のサインを確認できず、各部屋の配置がわからない。

- 明確で美しいデザインとし、連続的に設置する。
- JIS規格のサインを使用する。
- 表示内容は、外国語表示も行い、大事な情報に絞る。

できる限り案内サインに頼らなくてよいわかりやすい平面計画にする。



誘導音スピーカー

蛍光灯が点灯

視覚障がい者、聴覚障がい者に対応した避難誘導灯の設置

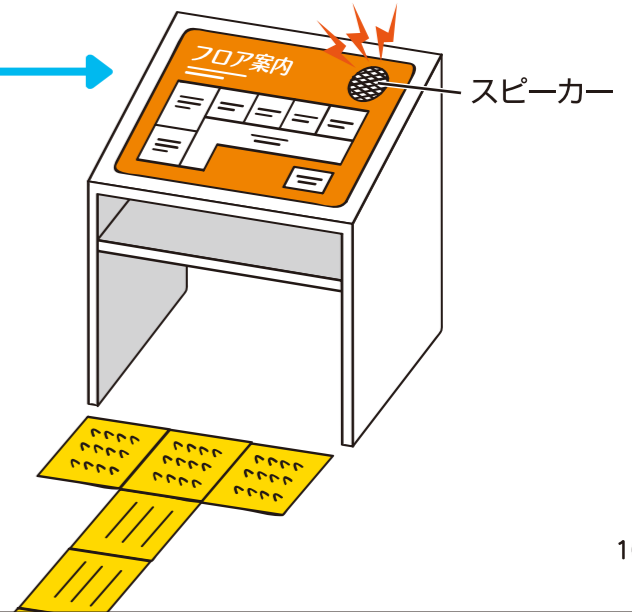


## 触知図

- 見る・聞く・触るという複数の方法で情報を伝える。
- 点字に絵柄や浮き文字を併用すると、点字が読めない人もわかりやすい。

## 案内図

- フロアの案内図は、白内障の方や色弱者の方に配慮して、はっきりとした色の対比をつける。
- フロア案内図の向きと、利用者の進行方向が一致するように配置する。
- 音声案内があると安心。
- 荷物を置くスペースや白杖をかけるスペースを設ける。



スピーカー